

マンパワーに触れる

Vitality

—56歳で起業、施設経営—

「あそこには昔、展望台があったのよね」

同郷の男性利用者に優しい口調で語り掛ける。傍らでは利用者が

和やかな雰囲気の中で趣味活動に夢中になり、ひな祭りとおあってスタツフが昼食のちらしずしの準備を進めていた。手の行き届いたケア

を目指して二〇〇七年八月、富士市境に規模多機能型居宅介護施設とグループホームを併設した「2人3脚」を開設した。

施設名の通り、利用者に寄り添い、ゆつくりと時間を掛けて、利

用者と視線を合わせて語り合う姿勢が随所にじみ出る。それを裏付けるように女性利用

者の一人が「私が元気に過ごせるのはこのおかげなの」とこやかに話す。

「今は夢がかなって幸せ。利用者の状態が少しでも良くなったり、利用者の笑顔を見たり

石田 友子さん

2人3脚
ホーム長

理想のケアを追い求め



すると元気になる」と充実ぶりを伝える。

実は努力の人だ。高卒後に准看護師の資格を取得して医療現場へ。

一時は専業主婦となったものの、平成元年に現場復帰。五年勤務後、

正看護師を目指し43歳で専攻科に入学を果たした。「入学には子供

の教科書を借りて毎晩三時間以上勉強した。授業では体育系以外は

ついていった。若い子にノートを貸したぐら

いと振り返る。

45歳で鷹岡病院に再就職し、長年認知症疾患の治療に携わり主任

や課長を歴任した。

56歳で理想の看護や介護を求め、自分で起業し施設を立ち上げる道を選んだ。資金は綿

密な経営計画と「思い」を銀行にぶつける形でねん出した。家族と位置付けているスタツフ

には幅広い年代を採用し、人材育成にも力を注ぐ。

施設運営で痛感することは「通い」を基本に「訪問」や「宿泊」をその延長に位置付ける小規模多機能ケアの

認知度が低いことだ。「訪問」は固定時間にとらわれずに利用者本人の状況や家族の都合に合わせてサービス時間や方法を変更できる。「宿泊」は「通い」で慣れた施設で馴染みのスタツフが対応したり、「通い」から連続的な利用ができたというメリットもあり、利用者の在宅生活を支えるのには適している。

「私だったら最適のサービスだと思うのに」。次の夢は「もう一つのグループホームを立ち上げること」。 mottoとして掲げているポジティブシンキングできょうも利用者笑顔で語り掛ける。

(渡)